

「まち探訪&交流会 第2回」 開催レポート

いつも暮らしているまちに改めて出会い、歩き訪ねて
“わたしのまちの推し活”の種を探しに行きました



プロジェクトの目的・概要

＜令和7年度 地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信プロジェクト＞

盛岡市大慈寺地区鉾屋町界隈をモデル地区とした本プロジェクトでは、市内外から選ばれ続けるまちを目指して、「暮らしでも訪れても良いまち」の歴史・文化や日常の魅力を市内外に発信してきました。地域に暮らす方々の視点を用いた『まちの魅力ガイド&散策ルートマップ』作成やウェブでの発信、パネル展開催などを実施しています。今年度は、地域の皆さんのまちの魅力再発見企画「まち探訪&交流会」を通じて、「わたしのまちの推し活」に取り組んでいます。

＜目 的＞

- ★普段暮らしている鉾屋町界隈の多様な魅力を発見する
- ★自身の地域活動や暮らしの価値を再認識する。
- ★あなただからできる「まちの推し活」をデザインする。
- ★これからのまちづくりを共にする「仲間」と出会い、つながりを育む。



「まち探訪&交流会 第2回」／地域と自己の魅力と価値の再発見、わたしのまちの「推し活」をデザインする

○ 開催日：2025年9月20日(土)

○ 探訪先：「盛岡市鉾屋町魅力ガイド&散策ルートマップ」でまち歩き
消防コミュニティセンター、ホームスパ工房、
酒屋・麴屋さん、御蔵 下町史料館、町家案内所 など

○ プログラム：
10:00～10:20 オリエンテーション
10:20～12:15 まち探訪
13:00～15:00 交流会ワークショップ

○ 参加者：10名／地域にお住まいの方、働いている・活動している方等



【主催・お問合せ先】 特定非営利活動法人盛岡まち並み塾 〒020-0827 岩手県盛岡市鉾屋町3番15号「大慈清水御休み処」内

協力：もりおかワカものプロジェクト

TEL:019-656-1603 <https://www.machinamijuku.org/>

【発行】 特定非営利活動法人盛岡まち並み塾 【発行日】 2025年10月 ※ 令和7年度盛岡市市民協働推進事業補助金活用事業により作成しました



交流会 [第2回]／わたしのまちの「推し活」をデザインするワークショップ

まち探訪は地域の特徴や魅力のとらえ方を体験するまちを知るための「予告」のような時間です。探訪で出会った人々、体験した時間、感覚を通じて気づいたこと感じたことを共有しました。まちの魅力や価値を「推し活」と捉えたアクションや取組のアイデアを考えました。個人・組織がもつ経験や特技、繋がり等も意識すると、アイデアに具体性が生まれて実現性が高まります。



◆まち探訪での発見 ～わたしのまちの推し活の種～

先輩方の熱意・熱量が凄まじい！
若さだとか年齢は関係ないと思った。
同じくらい地域に愛着を持ちたい。

まちに変わらない風景がある。
だから、いつまでも先輩方は若々しいんだ！

まちの人、魅力・想いを何十年と先に残していくために何ができるだろう。
役にたてることで貢献したい。

町家がステキ、良い雰囲気、落ち着いた街並み、
美しい空気や水、自然豊か、ものづくりを大事にしている、エネルギー溢れる職人が印象的。

「雲を紡ぐ」を読んでみたい。再読したい。

番屋の上からの景色がステキでした。
改めて良い街並みだなと思いました。

御蔵の建物の造りを初めて聞き、興味深かったです。

人も文化も工芸も、
学びも人情も全てがうまく残っているまちです。

歴史や建物の魅力はもちろんですが、
地域の人々の人柄や生き方が魅力的で充実していて羨ましかったです。

建物、道具、手法、古くからあるものを大切にしているのがこの地域がもつ価値であり魅力です。

やっぱり地域は“人”です。
地域の人がまちの歴史、文化をつくり守っている、ここはすごい地域です！

楽しかったです！気になっていた所に行けて地域の方の仕事や活動に誇りとやりがいを、街並みへの愛を感じた。
昔からの建物を維持する事、商売を続けることも凄い！
職人たちの思いや生き様、歴史をもっと知りたいです！

◆地域と自己の魅力と価値を「推し活」する ～アクションのヒント～

敷居が高く入りづらい場所が多い。
でもだからこそ、通って知っていく
楽しみがあるまちだと気づきました。

細重さんや歴史を教えてくださいー盃
森さんのお店、御蔵や案内所など
「また来たい」と地域のの人に会いに行ける場所があるまち素敵だね。

地域の歴史を学んだり案内したりと
知的欲求を満たしながら文化的活動
をする先輩方が沢山いてすごい！
エネルギーを放出してずっと元気！
私たちの方が元気をもらってる。

ハード面ではなくソフト面で地域に
関わりながらまちを伝え残せるかも。

地域の人たちの想いや人の魅力を残したい。
どう記録して伝えようか。
番組「72時間」やトークショーとか、
シリーズ展開が必要だね。

「地域ラジオ」で地域の人をゲストに
トーク企画。もりおかワカものプロジェクトのYouTubeチャンネルもあるよ。
新シリーズを作れるかも。

まだ話したい人&知りたい人がいる。
歴史研究会／地域の人の話を聞いたり語りあうサークルみたいな集いは。

SNSの発信を頑張ってみようけど、
まだしり込みしちゃうから、勉強会とかどうでしょうか。

学校の地域学習の手引になる「地域の人・場所」マップを作りたい。

前回話題に出た地域人のトレーディングカード良いですね。秋田の漁師カード、香川県に行った時に会ったスタンプラリーも良かったですよ。

年齢関係なく活躍できて、子育てしやすい暮らしやすいことが伝われば
移住者が増えるんじゃないかな。

前回、地域に移り住んできた方は意外と地域を知る接点がないのではという話がありました。「移住ガイドブック」的なものの作成とか、町内会用の資料とか作れたいですね。

舟っこ流しなどの実体験から伝えられることがあります、興味がある人や初めて経験する人にアンバサダー的に広めていけるかもしれない。

企業で他県に商品発送しているので、
地域パンフレットを同封したいです。

子育てをする視点でまちを見てみたいですね。

「学び」+「思い出づくり」ができる、子どもたちと親も一緒に地域とつながる体験企画をやりたいです。
お寺にお泊り会とか良いですよ。

各お寺にあるお宝が気になります。

◆「わたしの推し活」初めの一歩 アクション宣言

推し活アクションのヒント

- 伝える・広める「情報発信」の推し活： 見つめる、撮る、書く、話す
／あなたが「これだ！」と感じた鉾屋町の魅力を、あなた自身の視点で発信する活動です。
- 深める・体験する「学びと探求」の推し活： 訪ねる、調べる、体験する
／あなたの興味や関心をもとに、鉾屋町の魅力のルーツや背景をさらに掘り下げる活動です。
- 繋がる・動く「共創と実践」の推し活： 参加する、協力する、企画する
／地域の仲間と連携したり、新たな活動のきっかけを作ったりする活動です。

日々の暮らしや活動で意識したいこと、
やりたいことを各自で考えて出しました。

あなたも日常で始められそうなこと、
やってみたいことはありませんか？

- ★ 家族や職場の人にまちでの自分の楽しい&素敵な体験を話す
- ★ 一盃森さんのお店に通う&まちのこと、話の続きを聞きに行く
- ★ 企業のメルマガ等で地域魅力を発信する
- ★ 旅行者や修学旅行生に道をたずねられたら親切にする
&地域のことをお勧めしてみる
- ★ 地域ラジオ（ポッドキャスト）を企画してみる
- ★ YouTubeで先輩方のトークシリーズを企画してみる
- ★ 学校と地域と親子のつながりをつくったら



【今後の予定】 ＜令和7年度 地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信プロジェクト＞

★ 『まち探訪&交流会』次回は11月9日(日)予定

／暮らししている地域の魅力に改めて触れ、楽しみ、膨らませ、発信する“自分のまちの推し活”にみんなでチャレンジ♪
普段暮らし地域に出会い直し、地域と参加者との交流を通じて、地域の新しいつながりづくりを目指します。

★ 町家ギャラリー展 2025年11月21日(金)～12月21日(日)予定 会場：「大慈清水御休み処」
『まちの文化と日常の魅力を伝える、わたしのまちの“推し活”デザイン展 @もりおか市鉾屋町界隈』
／プロジェクトの取り組みと、まちの魅力を紹介する展示会開催。“自分のまちの推し活”の輪を広げたい♪

★ 特設ウェブページで、まちの魅力と活動内容を紹介。地域の魅力のルーツを市内外に発信♪
<https://www.machinamijuku.org/my-route-design>



特設Webからから
これまでの取組みもチェックできます

まち探訪 [第2回]／まちの魅力のルーツを探るまち歩きに出かけよう

今回は、消防番屋の望楼によってまちの成り立ちと歴史を俯瞰で“感じる”体験からスタートしました。山車庫の2階に上り、北上川の川原に下りたりと、アクティビティ満載！職人が集うホームスパン工房や、町家の酒屋・麴屋さん。地域と交わる人々に、まちの文化や歴史を伝えている北上川沿いの蔵の博物館や、まちづくり拠点の町家案内所などを訪ねました。地域ならではの人・活動・建物・景色からまちの魅力をご紹介します。



①「め組 山車庫」※旧番屋／盛岡市消防第二分団(「め組」) 分団長の一盃森さん



ここはどのような歴史がありますか？

明治43年に建設された番屋が、昭和26年に延焼したため建替えた番屋です。消防団が寝泊まりする屯所でした。現在の番屋を平成22年に新築した後に、「め組」山車保管庫として活用しています。山車をばらさないで保管できるのでありがたいです。

「め組」の由来は？

江戸時代(文化年間1804年～1818年)に自費を投じて消防組を設けた「目明し藤田武左衛門」の頭文字が由来です。
めあかしのふじたぶざえもん

②「大慈寺地区コミュニティ消防センター」※新番屋



消防団の活動内容は？

消防署員とほとんど変わりませんが、空気ポンペを持たないので、建物の外からの消火や消防用水の給水など、消防署員と連携して消火活動します。

まちの歴史に興味をもったきっかけは？

新番屋建築時のリーフレット作りがきっかけです。消防の歴史を調べ始めたら盛岡の歴史も知る必要がでてきて、図書館で書籍や新聞記事を調べました。消防団にも大正時代と昭和33年に作成された文献があり、「これを読んだ者は加筆・修正せよ」という言葉が書かれています。

★北上川の河原



御蔵の向にある扇状の階段を下りて、北上川の河原に向かいました。明治橋ができる以前の時代には舟を並べて板を渡した「舟橋」があった場所。河原におりると、頭上の通過交通の音が消え、川の水の音だけが聞こえる空間が現れます。春は対岸に美しい桜並木が見えます。川沿いを辿れば盛岡駅方面の近道で、ジョギングコースにしている方もいます。お盆の舟こ流し、舟運復活の取組もあります。明治橋たもとの川沿いは、舟運で栄えた城下南の玄関口であるこの地域らしいとおきの隠れた名所です。

③「みちのくあかね会」／ホームスパン職人の鎌田さん



設立60年目の2022年に、名須川町から「あさ開」敷地内に移転開業のホームスパン工房。ストールや服地など製品ごとに羊毛の撚り方や織り方の緻密な設計指示があり、空気を含ませながら製品を完成させます。多数の工程は複数の職人さんによる分業で生み出されています。工房は常時見学できてコースター作り体験(予約制)もできます。

仕事のやりがいや喜びは？

やっぱり、製品がお客様に選ばれて大切に愛用されていくことです。工房に併設のショップや市内デパート、インターネットや他県での催事出店等で全国にお届けしています。

この地域で仕事をすることの魅力は？

小説「雲を紡ぐ」で架空のホームスパン工房が舞台として描かれています。出版された時期が工房移転前なので、このことではないのですが、“鉦屋町のホームスパン工房”として、全国から読者の方が訪ねてきます。そして、小説の世界観や雰囲気を感じていただける素敵なまちなので、工房に来た方に「ぜひ鉦屋町の通りもご覧ください」とおすすめできることが嬉しいです。

④「細重酒店」／女将さん



明治元年頃に「竹の葉」という銘柄の造り酒屋を創業、大正元年に麴作りに専念して仕入販売の酒屋になりました。うなぎの寝床のような町家造りの建物の奥には、麴作りの作業場の蔵や、お米の蒸し窯があります。お店では、15時からのもつきりタイムに女将さんに会いに来る常連さんや観光客が集いします。

仕事のやりがいや喜びは？

毎日人が集まってくださることです。夕方になると皆さんが集まって、お話ししてお酒を飲んでる様子を見るのが楽しいです。それから、今でも味噌を手作りする方達がいるので、麴を必要としていただけてありがたく思ってます。

この地域で仕事をするものの魅力は？

今も実際にこの町家で暮らしながら店を営んでいることに、観光で訪れるお客様が大変驚かれます。単に建物を保存・活用しているのとはまたちがって、生活の場であるということに特に感動してくださるようです。

⑤「御蔵 下町史料館」／御蔵管理委員会会長 長岡さん&下町史料館館長 千葉さん



「御蔵」は北上川明治橋近くにあり、江戸時代の飢饉等に備えた南部藩の米蔵で市指定有形文化財。舟橋の資料や庶民の生活道具などを展示する「下町史料館」として、南大通3丁目の皆さんが管理と、展示や案内、運営を行っています。春は雑祭りなど季節で展示が変わります。入館無料。開館日は4月～10月の毎週土日ですが、事前問い合わせをすると、開館日以外も見学の対応をさせていただきます。



関わるきっかけは？

町内会で役員として関わり出しました。町内で誰もがができる事として、みんなで掃除をすることから始めて、展示品は徐々に整えていきました。

やりがいや喜びは？

各所から譲られ収集した暮らしの宝物が沢山あります。大切に使われてきたことが伝わってきます。委員会メンバーで展示企画を考えるので、来館者も「貴重なものが身近に見れる」と感動する姿を見ると本当に嬉しいです。

誇りに思うことは？

御蔵も舟橋も丁印も地元のものです。地元で地元の住人たちの手で管理・紹介することは自然なことだと思います。それを実現できていることが誇りです。

建物の特徴は？

壁は「落し板方式」という柱を削った溝に沿って板を積み重ね落とし込んでいく釘を使わない工法です。木材が豊富にとれる地域でしか作れない貴重な工法です。柱は縁起を担いで全て八角形になっています。昭和20年代には、屋根の重みによる壁のゆがみを防ぐために鉄のロープを取り付けています。

⑥「大慈清水御休み処」／盛岡まち並み塾 スタッフの佐藤さん



明治30年代八百屋だった町家を、2007年に改修した地域の案内所・交流施設です。歴史まちづくりをしている「盛岡まち並み塾」の拠点で地域のパンフレット等常設しています。町家の造りが見学できて喫茶もできます。ギャラリーや座敷のレンタルスペースもあり工夫次第で色々使えます。

大切にしていることは？

旅のお客さま、地域の方、どなたに来ていただいてもいつでも気持ちよくいていただけるように分け隔てなく丁寧な対応を心掛けています。

この地域の魅力は？

水も空気もきれいでおいしいと感じます。盛岡が地元ですが、他の町に行ってみると改めて感じますね。それから人が温かい。始めは硬派で慎重な印象がありますが、一度心を開くと、とても情が深くて親切です。